台大日本語文研究第 12 期
2006 年 12 月，頁 57-74
本文 2006-1213 收稿，2007-0117 通過刊登

# 「ちゃんと」的語義分析

黃淑燕*

## 摘　要

日常生活中常用的「ちゃんと」一詞，仔細觀察會發現它的語意・用法呈現出非常複雜而特別的分佈模式。由語法結構上來看，它只能修飾動詞，位置也出現在最靠近動詞的地方，顯現它與動詞間的緊密關係；但是由實例中我們卻可發現它所表達的卻是屬句子最外延的「說話者的判斷和態度」部分。

因爲「ちゃんと」語意中原就帶有「正確、無誤、合於社會規範」的意涵，所以雖是屬說話者取向的副詞，也就是由說話者來判斷是否「ちゃんと」，但是實際表示出來的卻是它就是一種社會規範之意。而也由於這種語意意涵，「ちゃんと」又自動的會排擠某些句型和語彙，這些都是單純從語法結構的觀點無法說明的。

關鍵詞：說話者取向、句末型態、共起、語用面、社會規範

* 東海大學日本語文學系副教授

# An Analysis of the Significance of *tyanto*

HUANG, Shu-yen*

## Abstract

*Tyanto* is an expression commonly used in everyday life, but close examination reveals that its meaning and use display an extremely complex and special arrangement. In terms of grammar, *tyanto* can modify only verbs. It is positioned in close proximity to the verb which it modifies, thereby demonstrating its intimate relation to that verb. But in actual examples we discover that what it conveys in fact belongs to the more distant register of the judgements and attitudes of the speaker.

Because the basic meaning of *tyanto* implies correctness, certainty, and an adherence to social norms, it can be seen as an adverb expressing a tendency of the speaker, that is, whether or not the speaker judges something to be *tyanto*. However, what is actually expressed is that that thing is a social norm. As a result of this implication, *tyanto* also automatically excludes certain sentence patterns and vocabulary in ways that we cannot account for simply from the perspective of grammatical structure.

Key words: speaker tendency; modality; use with; pragmatics; social norm

* Associate Professor of the Department of Japanese Language and Literature, Tunghai University

# 「ちゃんと」の意味分析

黄淑燕*

## 要　旨

日常生活の中でよく使われる「ちゃんと」の意味・用法はかなり複雑な様相を呈している。文法構造上、動詞述語にしかかかっておらず、もっとも述語の近くに位置し、もっとも動詞と緊密な関係を示していながら、それ自身が文のもっとも外延的部分である話し手の判断・態度を表している。また、意味的に予め「正しい、間違いがない、社会規範に合っている」といった前提を内包しているため、実際は話し手自身の判断であっても、社会的規範である含みをかもし出している。意味的に、いろいろな文型・語彙を排除したり組み入れたりして、文法構造的な観点のみからでは説明できない独自の分布をなしている。

キーワード：話し手志向、モダリティ、共起、語用的側面、社会規範

* 東海大学日本語文学系副教授

# 「ちゃんと」の意味分析

黄淑燕

## 一、はじめに[1]

副詞の中には、話者がそれを使用する際に予めある判断が含意されているものがある。たとえば、「まさか」は「可能性は非常に低いとの判断を表す。」、「しょせん」は「どんなに条件がよくなっても、結果は予想通り好ましくない様子を表す。」といったような判断が考えられる。そして、本稿のテーマとなる「ちゃんと」には「正しく、間違いがない」という判断が考えられるようである。[2]

「正しく、間違いがない」という前提となる判断の中には、ある行為が、規範とされる常識や一般通念に適っている、と評価される含意も含まれており、単なる「いいこと」であるとの判断とは異なっているものと考えられる。

たとえば、

1.これはいい仕事ですね。[3]

と言う場合、楽な仕事、麻薬販売といったようなお金がたくさん儲けられる仕事をさすこともあるが、

2.これはちゃんとした仕事ですね。

というと、社会から認められている、その社会における規範に適っているものに限ってしまう。すくなくとも麻薬販売などの仕事は「ちゃんとした仕事」の範囲から排除されるだろう。

次節からは他の副詞と対照しながら、「ちゃんと」のさまざまな特性を取り出してみることにしたい。

---

[1] 本論文は第一回「當代認知語言學與日語研究創新研討會」で口頭発表したものをリライトしたものである。

[2] いずれも『現代副詞用法辞典』や森本氏の『話し手の主観を表す副詞について』を参考して、注記したものである。

[3] 以下の例文は注記を付け加えたもの以外、すべて著者によるものである。

## 二、「話し手指向」である「ちゃんと」

森本 1994 では、副詞には主語指向のものと話し手指向のものがあるとしている。たとえば、

3.サイモンはいやいや約束した。（森本 1994 より）

「いやいや」と感じる人はこの文の主語である「サイモン」なので、「いやいや」は「主語指向」の副詞である。

一方、

4.さいわい、ジョンは羊をすぐ見つけた。（森本 1994 より）

の場合、「さいわい」と思う人は、二つの可能性を持つ[4]。一つは、文の主語であるジョンで、もう一つは、話し手である。ただ話し手にしたほうが自然なので、「さいわい」は「話し手指向」副詞であるとされている。

なお、主語指向の副詞である「いやいや」はこの文の述語である「約束した」にかかり、「約束」という行為の行為主は、「いやいや」と感じる人と同じ「サイモン」である。一方、「さいわい」を「話し手指向」の副詞とする場合、それがかかる先は「見つけた」という述語のみでなく、「ジョンは羊をすぐ見つけた」の全文である、といった違いが観察される。

「ちゃんと」の場合は

5.医者は病気のことをちゃんとご家族の人に伝えた。

6.私は自分が早いと思ったら、ちゃんと私より早い人がいた。

7.李さんもちゃんとわかっている。

8.あの人はちゃんとした人です。

例 5 の「ちゃんと」は「伝える」にかかり、「伝える」の行為者は「医者」である。ところが、「ちゃんと」であるかどうかを判断するのは話し手である。例 6 の「ちゃんと」は「いる」にかかり、「いる」の主体は「私より早い人」で、「ちゃんと」と判断するのは 5 と同じ「話し手」である。例 7 において「ちゃんと」は「わか

[4] 『話し手の主観を表す副詞について』p.26

っている」にかかり、「わかっている」の主体は「李さん」、そして、「ちゃんと」と判断するのは同じ「話し手」である。例 8 の「ちゃんとした」は「人」にかかり、「人」の主語は「あの人」で、「ちゃんとした」と判断したのは「話し手」である。

森本 1994 の分類法に従えば、「ちゃんと」のこの 5〜8 例はともに「話し手指向」である。ところが、5〜8 例とも修飾先は述語のみで、述語の行為主も話し手ではなく、当該文に現れる主語となっている。すなわち、「ちゃんと」は文法構造的には文の中に納まってはいるが、意味的には言外にある話し手の認識・態度を強く表しているものであるといえる。ここに「ちゃんと」の文法構造上の範囲と意味的範囲の食い違いが見出される。

## 三、「ちゃんと」と述語との位置関係

文における副詞の位置は比較的自由であるとされている。たとえば、副詞「たぶん」の場合、

9A.彼のことだから、来年もたぶん来るだろう。

9B.彼のことだから、たぶん来年も来るだろう。

9C.たぶん彼のことだから、来年も来るだろう。

とさまざまな位置に挿入できる。「ちゃんと」も文中のさまざまな位置に挿入できるが、「たぶん」に比べると、自由度はやや落ちるようである。

10A.彼のことだから、来年もちゃんと来るだろう。

10B.彼のことだから、ちゃんと来年も来るだろう。

10C.＊ちゃんと彼のことだから、来年も来るだろう。

野田 1984 によれば、一つの文の中に複数の副詞的成分が同時に現れる場合、それぞれの副詞的成分のカテゴリーによって、基本的な語順傾向が見られるとされている。その順序とは、ムードの副詞→テンスの副詞→肯否の副詞→アスペクトの副詞→ボイスの副詞→実質の副詞、といったように、述語との関係が緊密であればあるほど、述語の近くに位置するというものである。本節はこの観点から、

「ちゃんと」と述語との緊密度を検証していくことにする。

まずは、ムードの副詞、すなわちモダリティとの共起を制限してしまう副詞の類から考えてみよう。

11.彼もたぶんちゃんと／△ちゃんとたぶん論文を書くだろう。

順番的に「たぶん」は文末の「だろう」と呼応し、「ちゃんと」はすぐ近くの述語「書く」にかかることから「たぶんちゃんと」という順番のほうが自然のようである。ところが、じっくり読めば「彼もちゃんとたぶん論文を書くだろう」も使えないわけではないようである。理由として考えられるのは、読む／聞く人には予めすでに脳裏に「たぶん」はムードの副詞だから、当然、推量のモダリティである「だろう」と呼応し、そして、「ちゃんと」は当然動詞の「書く」にかかるものだ、といった言語知識が存在しているので、それを駆使し、自動的にキャッチングしてしまう可能性があるからである。

次はテンスの副詞である。

12.来年ちゃんと／△ちゃんと来年パソコンを買おう。

これも「来年ちゃんと」のほうが自然だが、前述した「ちゃんとたぶん」と同様、「ちゃんと来年」も読み手／聞き手が予め所有する言語知識を駆使すれば読めるようになるものと思われる。

肯否の副詞の場合は、その制限が厳しくなってくる。

13.あまりちゃんと／＊ちゃんとあまりしていない。

14.とてもちゃんと／＊ちゃんととてもしている。

「ちゃんと」は必ず肯否の副詞の後に位置するようである。

また、アスペクトの副詞も

15.やっとちゃんと／＊ちゃんとやっと動き出した。

順番が換えにくいようである。

ボイスの副詞についても「ちゃんと」は「わざと」の後に位置しなければならないようである。

16.わざとちゃんと／＊ちゃんとわざと自分で書いた振りをする。

そして、実質の副詞の場合に関しても

17.ゆっくりちゃんと／？ちゃんとゆっくり話す。

「ちゃんと」が後である。

また、野田 1984 では触れられてはいないが、森本 1994 に見られる「話し手の主観を表す副詞」の類の位置に関しても

18.幸いちゃんと／＊ちゃんと幸い彼も書いた。

「話しての主観をあらわす副詞」は「ちゃんと」より前に来るほうが自然である。

上に見たように、「ちゃんと」は他のどの副詞的成分よりも、述語の近くに位置するほうが普通である。つまり、「ちゃんと」は他のどの副詞的成分よりも述語との関係が緊密であると言える。

ところが、なぜ「ちゃんと」はもっとも外延的な「ムードの副詞」や「テンスの副詞」と位置を互換しても非文にならないのだろうか。その理由として考えられるのは、「ムードの副詞」も「テンスの副詞」も、呼応先が述語ではなく文末だからである。ムード副詞の呼応先はそれぞれの語によって決まる特定のモダリティであり、テンス副詞の呼応先は時間のモダリティである。呼応先はどれかは、予め語に内包されているので、位置を自由に変動しても、読む人は自動的にスキャニングし、誤解することなく、適切な解釈を見つけることができるからと考えられる。結果的に、「ムードの副詞」「テンスの副詞」の位置は他の副詞的成分より自由であることとなる。

その一方、副詞成分と述語との関係が近づくにつれて、互いの位置の互換性も低くなってくる。かかり先が同じであるため、順番の規定も自然と厳しくなるのではないかと思われる。

## 四、「ちゃんと」の共起関係

「ちゃんと」の共起関係はやや複雑な様相を呈している。文法構造的に許されたりされなかったりするものもあれば、語彙的な意味で相容れたり相容れなかったりするものもある。また、社会常識や個人的な認識によって、共起が許されたり、制限されたりするもの

もある。以下、１）文法構造的側面、２）語彙の意味的側面、３）語用的側面、の三つに分けて検討していきたい。

**（一）文法構造的側面**

**１．「ちゃんと」は動詞しか修飾しない**

「ちゃんと」は動詞との共起性はいいが、名詞や形容詞、副詞など、動詞以外の品詞との共起は基本的にむずかしい。

19A.＊ちゃんと日記。

19B.＊ちゃんとリボン。

19C.＊ちゃんとうれしい。

19D.＊ちゃんとない。

19E.＊ちゃんとようやく。

19F.＊ちゃんともう。

ただ、実例で次のようなものが見られることもある。脚本『ビューティーフルライフ』のト書きに出てくるものである。

20.（犬の）首にちゃんと赤いリボン。（『ビューティーフルライフ』より）

主人公の杏子の退院祝いにお兄さんたちが犬をプレゼントした。プレゼントだから、その犬の首にプレゼントらしくちゃんと赤いリボンがついている、という場面で、一見「ちゃんと」が名詞と共起しているように見える。ところが、果たしてこの「ちゃんと」は本当に「赤いリボン」にかかっているといえるだろうか。「赤いリボン」の後に「付いている」または「つけてある」など、動詞述語が省略されており、それを読み手が自動的に読み込み、「ちゃんと」をその読み込まれた動詞述語にかからせていると見たほうが合理的なのではないかと思われる。そのような理由から、やはり「ちゃんと」は動詞以外の他の品詞との共起は認められないと考えられる。

**２．「ちゃんと」とモダリティの共起**

21.ちゃんとする／しよう／しようか／するんだ／するんだろう／するんだろうか。

22.ちゃんとした／したか／している／しているか／しておく。

23.ちゃんとしない／しなかった／しないんだろう／しなかったんだろう。

24.ちゃんとしろ／しなさい／してください／したい／してほしい。

25.ちゃんとするべきだ／すればいい／しなければいけない／しなくてもいい。

26.ちゃんとするに決まっている／するにちがいない。

27.ちゃんとしているのではないか／しているらしい。

28.ちゃんとするさ／するよ／するんだぞ。

「ちゃんと」は否定を含め、ほとんどすべてのモダリティと共起するが、

29.ちゃんと＊するな／＊しないでください。

禁止「するな」、否定要求「しないでください」との共起は成立しない。

否定の文をもう少し詳しく見てみよう。

30.ちゃんとし　ない。

31.この子は　ちゃんと食べ　ないから、困る。

「ない」は「ちゃんとする」「ちゃんと食べる」全体を否定している。「ちゃんと」は否定のスコープ内にあることがわかる。

同じ観点で、四（一）２．にあげた 21～28 の例を見てみると、「ちゃんと」はすべて動詞「する」のみにかかっていることがわかる。換言すれば、「ちゃんと」は一見ほとんどのモダリティと共起しているように見えるが、実際はモダリティのスコープ内にあるものなので、本当の共起関係ではないのである。つまりモダリティのいかんにかかわらず、「ちゃんと」には修飾する動詞述語さえあれば、使用が可能ということになる。

となると、ますます例 29 が非文となる理由に対する説明が付かなくなる。

**（二）語彙の意味的側面**

**１．副詞的成分の意味とモダリティ**

「はじめに」でも触れたように、「ちゃんと」はある行為が規範とされる常識や一般通念に適っていると評価されるものである。しかも、話し手指向副詞なので、そう評価しているのは話し手自身である。つまり、四（一）２．に見られる例 29 は

29.ちゃんと＊するな／＊しないでください。

話し手自身が認めて評価している社会の規範に適った「正しい」ことを、聞き手に「しないように」と要求している。ここに見られる意味的な矛盾が四（一）２．の例 29 を非文にした理由なのではないかと思われる。

このように語彙の意味的な矛盾が原因となり、何かと共起できなくなるものの例は、「ちゃんと」のほかにもある。たとえば、意味的には「ちゃんと」とちょうど対蹠的な「いやいや」がそうである。

32.いやいや食べる　な。

33.いやいや食べ　ないでください。

「ちゃんと」と同じように、「いやいや」もモダリティのスコープの中にある。つまり、モダリティ関係なしに修飾される動詞述語があれば、使用できるはずである。ところが、

34A.いやいや／ちゃんと食べる。

34B.いやいや／＊ちゃんと食べるな。

34C.いやいや／＊ちゃんと食べないでください。

34D.＊いやいや／ちゃんと食べない。

34E.＊いやいや／ちゃんと食べよう。

34E.＊いやいや／ちゃんと食べてください。

客観的な肯定描述文と禁止・否定要求以外、ほとんどのモダリティと共起しないのである。

「いやいや」は、当該行為の実行に対して消極的であるという行為主の態度を表す、主語指向の副詞である。行為に対して消極的だから、積極的に行為しようという呼びかけ――勧誘のモダリティ「う」と共起できず、積極的に行為要求する「てください」と共起できないことも理解できる。

また、否定のモダリティに関しては、「いやいや」は行為の実行への消極的な態度を示すので、「食べない」と、すでに実行する必要がなくなっているのであれば、必然的に行為者も「いやいや」と感じる必要がなくなるのであろう。

以上、一見モダリティ共起の制限のように見えるものが、実際は語彙の意味の衝突がもたらした矛盾に理由がある、という点について考察した。

**２．「ちゃんと」が修飾できない動詞類**

四（一）でも触れたように「ちゃんと」はほとんどすべてのタイプの動詞述語を修飾することができる。けれども、共起できないものも、わずかだが、ないわけではない。

35.＊ちゃんと感心する／感心した。

36.＊ちゃんと思う／思った。

37.？ちゃんと感謝する。

「感謝」の意味は「プレゼントを渡す」まで含むなら「ちゃんと感謝する」もまったく言えないことはないので「？」とした。

意志動詞である「ちゃんと考える」が問題なく使用されるのに、非意志動詞の「ちゃんと思う」が非文となる。

38.台湾も高い山ではちゃんと雪が降る。

39.この扇風機は古いけど、ちゃんと回るよ。

非意志動詞だからといって「ちゃんと」によって修飾されないわけではない。

「感心する」「思う」は共通して、「人間の内面的非意志行為（外面に現れない）を表す動詞」であり、外部からの可視性のない行為であるのに対し、「ちゃんと」は話し手指向副詞で、話し手には判断を行うための可視的な場面が必要だから、共起しないのであろうか。ところが、

39.私にはちゃんとわかる[5]。

---

[5] 第一回「當代認知語言學與日語研究創新研討會」会場における湯廷池先生の教示によるものである。

「わかる」も非可視的な動詞なので、非可視のみが理由ではないようである。「思う」と「わかる」の「た」形の相違、「思った」と「わかった」といった行為の終了性の相違から何か解決の糸口が得られるのではないかとも考えられようが、今後の課題にしたいと思う。

なお、あくまで物事の適切な情態を評価している副詞なので、「ちゃんと」はやはり時間的要素の強い語とは共起しにくいようである。そのため共起しやすい動詞述語の命令のモダリティでも、

40.？？ちゃんと急いでください。

というように時間に焦点が置かれると、違和感を持つ人が多いようである。

### ３．「ちゃんと」と敬語表現

「ちゃんと」と敬語の共起も微妙な制限があるようである。目上に対して、

41A.どうぞ召し上がってください。

といえるが、

41B.＊どうぞちゃんと召し上がってください。

とは、言いにくいのである。

「どうぞ」が目上への尊敬語と共起する場合は、相手の依頼や希望をかなえる様子を表すものとなる。一方、「ちゃんと」は話者が判断する「正しい規範、すべきこと」が含意されている。次例のように話者にはそう判断する理由（体が弱っている）があって、目上に対して強く要求する場合なら

42.お体が弱っていらっしゃるから、ちゃんと召し上がってください。

許容されるかもしれないが、「どうぞちゃんと召し上がってください」においては、「どうぞ」という相手本位の副詞との共起は意味的な矛盾があるから、認めにくいと思われる。

### （三）語用的側面

#### 1．異なった「ちゃんと」の意味範囲

43.ちゃんとした教授がちゃんとしていないから困るものだ。

この例において、前の「ちゃんと」と後の「ちゃんと」の意味範囲が異なっているのは明らかであろう。前者の「ちゃんと」の意味の可能性の一つとして、「世間から認められている、教授のポストにいる」教授である、と考えられる。ところが、後者は「私から見れば、教授ならこういうことをするべきだ」ということをしていない、という意味となる。もちろん、具体的に「ちゃんと」はどのような内容を含意しているのか、話し手により、状況により、さまざまに変化する可能性がある。このように話し手により、状況により、意味内容が変容してしまうものを語用的側面のものとする。

44.ちゃんと食べない。

は「食べる」行為をしないという意味ではなく、「食べる」という行為にはレベルがあり、「ちゃんと」は満足されるレベルであるという意味を持つ。「ちゃんと」のレベルを 10 とし、10 を満たしていない、という意味である。それでは、どのレベルなら 10 と認められうるか、というと人それぞれである。これが「ちゃんと」の語用にゆれを与える大きなファクターであると思われる。

45A.外科医なのに手術ができない。

45B.？ちゃんとした外科医なのに手術をしたこともないし、できない。

外科医の仕事は手術を施行することである、ところがこの外科医は手術ができない。すると、「私が持っている社会規範から見ると、この人はちゃんとした外科医ではない」と見なす人は「ちゃんとした外科医なのに手術ができない」を非文とするだろう。一方、外科医という資格を持っていたら、それで「ちゃんとした」と判断する人だったら、別に手術ができなくても「ちゃんとした外科医」だと判断し、「ちゃんとした外科医なのに手術ができない」を非文と見ないこともある。

次例も似たようなものだが、話者のフレーム「通常…は…である」と連動的に正確な文か非文になるのではないかと考えられる。

46A.外科医なのに、レントゲンが見られない。

46B.？ちゃんとした外科医なのに、レントゲンが見られない。

**２．「ちゃんと」と社会規範**

もう少し「ちゃんとした」について述べると、われわれは時々

47.ちゃんとした大人

という。その場合、その「大人」とは、ただの普通の大人ではなく、「やるべきことをやっている、世の中に認められている、「おとな」と称するに値する、大人らしい大人」というようなさまざまな思惑が思い浮かべる。一方、

48.ちゃんとした子供

49.ちゃんとした老人

という場合、「わがままではない、甘えていない」のプラスイメージはあるだろうが、人によっては必ずしも「子供らしい子供」「老人らしい老人」のイメージは入っていないようである[6]。ここからわかるのは、日本社会における「大人」という言葉には肯定的なイメージが入り込んでいる。そして、「子供」「老人」という言葉自身にはそういうプラス的イメージが含意されていないようである。

このように「ちゃんとした N」と「N らしい N」との対照によって、判断者が当該名詞をどう見ているかを理解することができるようである。なお

50.＊ちゃんとした赤ちゃん

が非文となるのは、この社会はまだ「赤ちゃん」という言葉に対して、プラスマイナスイメージをつけていないからなのではないかと思う。

それでは「ちゃんと」が修飾する動詞から何が見出されるのだろ

[6] 「子供らしい子供」「老人らしい老人」も人によって思う浮かぶイメージが違うので、一概には言えない。

うか。

51 ちゃんと結婚する／した。

52 ちゃんと子供を生む／生んだ。

53？ちゃんと不倫する／した。

結婚したり、子供を生んだりすることはこの社会の規範に合っているもので、「ちゃんと」で修飾するのはとても自然である。ところが、「ちゃんと不倫」となると、前に何かコンテクストがあると即座に感づくだろう。たとえば、結婚した当初から、このカップルは長続きしない、きっとどっちかが不倫するんだろうと予想していた。その予想が見事当たった暁には「ほら、やっぱりちゃんと不倫したんだ、あのカップルは」。

また、動詞の必須成分が省略されるときも「ちゃんと」はその暗示の効果を発揮する。

54 ちゃんと飲んでいる。

という文を聞いたとき、何を飲むと想像されるだろうか。薬だったり、ビタミンだったり、お酒だったり、人によってさまざまだろうが、一応「いい」と思われるものの方が普通であろう。「毒を飲む」など普通は思いつかないものである。ところが、「約束だから、ちゃんと毒を飲むのよ。」とコンテクストを与えたら、自然となる。なお、この場合、ちゃんとと評価させるのは「約束」だからである。

## 五、結び

以上、「ちゃんと」の意味・用法について考察を行ってきた。かなり複雑な様相を呈していることがわかる。文法構造上動詞述語にしかかかっておらず、もっとも述語の近くに位置し、もっとも動詞と緊密な関係を示しているのに、それ自身が文のもっとも外面的な部分である話し手の判断・態度のみを表している。語義的にも、いろいろな文型・語彙を排除したり、組み込んだりするばかりでなく、話し手の修飾される単語への見方までもあらわにさせてしまうことができる。

そして、話者が勝手にある行動が正しいか正しくないか、判断を下しているにもかかわらず、社会規範という大義名分を借りてそれを表現している。日常生活の中でよく使われるだけに、興味深いものである。

## 参考文献

郡司隆男・阿部泰明・白井賢一郎・坂原茂・松本裕治（2004）『言語の科学４　意味』岩波書店

仁田義雄（2002）『副詞的表現の諸相』くろしお出版

金水敏・今仁生美（2000）『現代言語学入門４　意味と文脈』岩波書店

森本順子（1994）『話し手の主観を表す副詞について』くろしお出版

中道真木男（1991）「副詞の用法分類―基準と実例」『副詞の意味と用法日本語教育指導参考書 19』国立国語研究所

野田尚史（1984）「副詞の語順」『日本語教育 52』日本語教育学会

## 辞書

田忠魁・泉原省二・金相順編著（1998）『類義語使い分け辞典』研究社

小学館辞典編集部編（1996）『類語例解辞典』

広瀬正宜・庄司香久子編（1994）『日本語学習使い分け辞典』講談社

飛田良文・浅田秀子著（1994）『現代副詞用法辞典』東京堂出版